

# 水環境ビジネス推進拠点の設置について (下水道技術の国際戦略拠点)

## 1. 提案

高度な下水道技術を核に下水道の計画から建設、維持管理をパッケージとして海外展開するための**下水道技術の国際戦略拠点**については、400 万年の歴史を持ち固有種豊かな琵琶湖の水質保全、湖沼環境保全のために、全国に先がけ高度処理を導入する等、数々の先駆的取り組みを実施し、さらに、多様な県内企業を活用して水環境ビジネスの振興を目指す本県に設置されたい。

## 2. 現状と課題

琵琶湖には、厳しい水質環境基準が設定されており、種々の高度な水質保全対策が展開されてきた。

下水道事業においては、独自に厳しい排水基準を設定し、高い処理水準をもって事業を展開してきた。

汚水処理の方法としては、県内のいずれの処理場とも琵琶湖の富栄養化防止のために高度処理を導入し、通常の有機物除去を中心とした処理に加えて窒素、リンの除去を行っているのが大きな特徴である。

現在、琵琶湖流域下水道湖南中部浄化センターでは水処理施設を増設中であること、また、水処理施設に近接して水環境科学館があることなどから、国が実施される「下水道施設のショーケース化」が容易に実施できる。

また、近接して琵琶湖博物館や水生植物公園があり、高度な下水処理技術だけではなく、し尿等の循環利用や人と身近な自然とのかかわりなどの環境学習ができる場もある。

本県は、水処理膜メーカー等水環境関連企業や大学等が多く立地する環境技術の集積地、環境の先進地であり、下水道だけでなく上水道等も含めた幅広い水環境ビジネスを推進することとしている。

多くの県内中小企業で構成される経済産業団体、水環境関連企業、地元市等および学識経験者が参加する、「下水道技術の国際戦略拠点誘致推進会議」を県とNPO 法人による協働事業として創設する予定をしている。  
(県内企業のメリット) 海外に向けたPR 効果、海外からの受注機会の拡大など

## (提案の概要)

### [国計画]

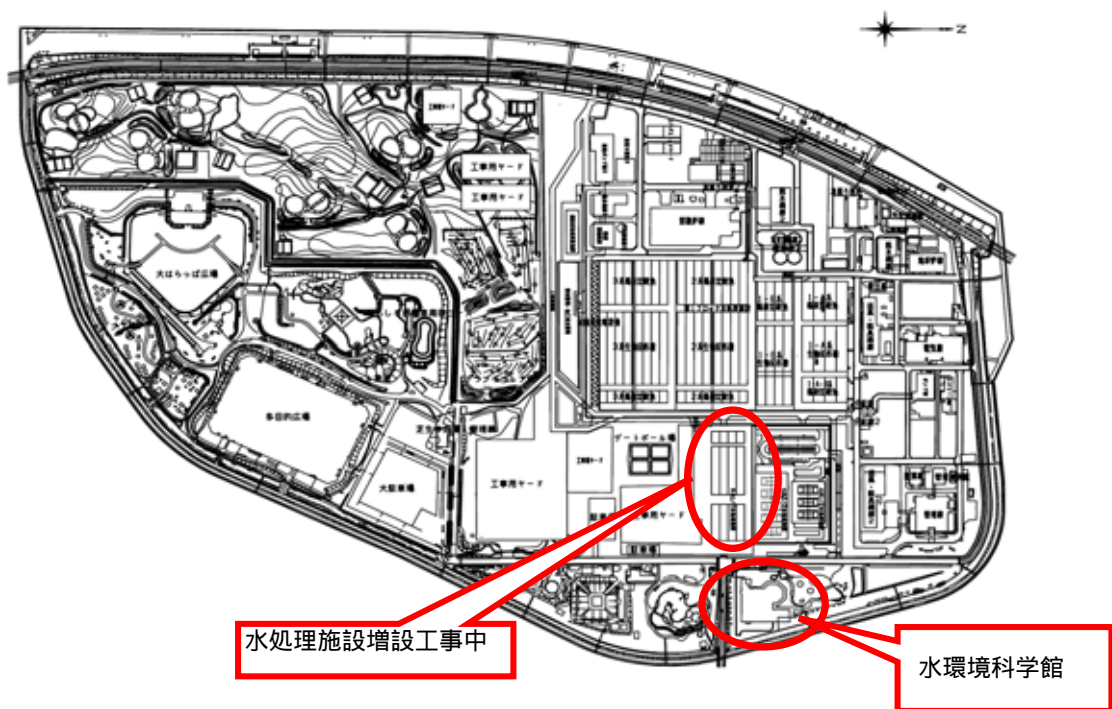
既存の下水処理施設を改良し、日本版ハブとして下水道技術の国際拠点を創設

- ・技術開発拠点
- ・商談スペース
- ・ショーケース
- ・ネットワークング人材育成

草津市矢橋町地先の矢橋帰帆島に設置している「湖南中部浄化センター」および水環境科学館(H23.3 末廃館予定)を下水道技術の国際戦略拠点として利用願いたい。

国際戦略拠点の創設を活かし、水環境関連企業、県内の中小企業の振興や工業高校などの就労の場の拡大につながる水環境ビジネスを推進することとしている。

# 琵琶湖流域下水道 湖南中部浄化センター



# 滋賀県立 水環境科学館



## 施設の概要

所在地	草津市矢橋町字帰帆2108 (湖南中部浄化センター内)
延床面積	約 3,500m <sup>2</sup> (3階建)
各階の概要	1階 展示室(3室)、事務室、エントランスホール 2階 資料室、研修室、会議室 3階 体験学習室



全景



正面



# 滋賀県の水関連企業・学校群等の立地状況



本県南部地域には、水処理膜メーカー等水関連企業や大学等も多く立地し、日本有数の環境技術の集積地、環境の先進地である。

本県南部地域は、企業や研究機関等の水環境ビジネスが集積する(仮称)ウォーターバレーをイメージするに相応しい地域であり、今回提案の「下水道の国際拠点の設置」については、その中核を担うものと位置づけている。

拠点の設置により、水環境ビジネス分野への中小企業の参入や新規創業などビジネスチャンスの拡大と、工業高校や職業訓練機関を卒業した専門技術人材の新たな雇用の場の創出につなげて、滋賀らしい持続可能な産業振興と活力に満ちた地域づくりを目指す。



びわ湖環境ビジネスメッセ

# 近畿1400万人の命の源 「琵琶湖」を預かる滋賀

## 住民運動の展開

1977年琵琶湖に発生した淡水赤潮を契機として、琵琶湖の水環境を守るため、リンを含む洗濯用合成洗剤から石けんへの転換を訴える「石けん運動」が展開。

## 行政施策の実施

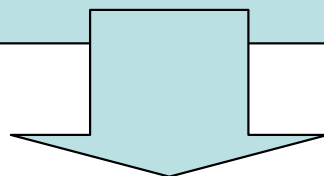
リンを含む合成洗剤の使用を制限する「滋賀県琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」を制定(1979年)。日本で初めて窒素・リンに対する排水基準設置。

また、琵琶湖環境科学研究センターや琵琶湖博物館を設置し、そこで得られた知見を水質保全対策に活用している。



## 企業活動の進展

滋賀県の厳しい排水基準に対応した取組を行っているほか、多くの企業は琵琶湖をはじめとする環境の保全活動を実施している。



厳しい水質環境基準を達成するために、  
ソフト、ハード両面からの  
種々の水質保全対策を実施してきた。

# 滋賀の経験をアジアを はじめ世界に発信

## 【下水道から農業集落排水まで】

都市部の下水道、農村部の農業集落排水施設から合併処理浄化槽、し尿の収集処理に至るまで、地域の実情に応じた多様な汚水処理施設を整備してきた経験。

(汚水処理施設整備率 2009年末97.8%)

## 【建設にかかる住民等の合意形成】

処理場や放流先の選定等について、住民や流域内の関係行政機関との間で合意形成を図りながら進めてきた経験。

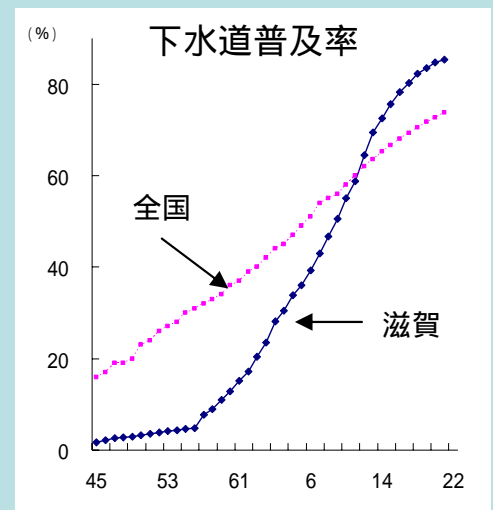
## 【維持管理と下水道経営】

高度処理の負担割合等の維持管理について、住民や関係市町との間で合意形成を図り(料金設定等)、下水道事業を運営してきた経験。

## 【急ピッチな整備】

汚水処理施設を急ピッチで整備してきた経験。

(下水道普及率 1979年末4.3% 2009年末85.4%)



今後汚水処理施設の整備を進めるアジア諸国等には、  
これらの滋賀の経験が貴重なモデルになる。